

『思考と対話：日本哲学プラクティス学会誌』 投稿規定

2018 年 8 月 26 日

2020 年 4 月 6 日（改訂）

2024 年 7 月 16 日（改訂）

2025 年 12 月 4 日（改訂）

1. 投稿テーマ

思考や対話、その教育に関わる、哲学、倫理学、教育学、心理学などの分野のもの、哲学プラクティスの発展に寄与するもの。

※投稿可能な原稿は、未公開のもの、応募の時点で他の学会誌などに投稿中ではないもの、日本語ないし英語で書かれたものに限りします。

※以下の 4 つのカテゴリーの原稿を募集します。投稿時のメール本文に、投稿する原稿のカテゴリーを記載してください。

〔i〕 公募論文

上記の投稿テーマに関する学術論文。

〔ii〕 報告

哲学プラクティスの実践に関する成果報告、または学会・研究会・ワークショップ等の参加報告が書かれたもの。

〔iii〕 ディスカッション

学会誌に掲載された論文へのコメントや意見表明、その他の研究上の議論の提起が書かれたもの。

〔iv〕 書評

哲学プラクティスに関連する書籍（国内外を問わない）についての紹介と評価が書かれたもの。

2. 応募資格

論文テーマに関心のあるすべての人

3. 「公募論文」執筆要領

以下の各号をふまえて応募して下さい。

(1) 分量は、A4 サイズで 40 字×40 行でレイアウトして、本文、図、表、画像、改行などによるスペース、節タイトル、注および文献表も含めて、10 ページ以内とします（タイトル、要旨、キーワードは除く。フォーマットの 2 ページ目から数えて 11 ページ目まで）。フォーマットは別紙参照のこと。

(2) 注についてはソフトウェアの注作成機能を使わず、文末にまとめて記してください。

(3) 審査の方法は匿名審査制（＊「6 審査」を参照）によります。匿名性の確保のため、以下の点を守って執筆・投稿してください。

※原稿には、氏名、所属、研究助成や共同研究者への謝辞を記載しないでください。

※氏名、所属、連絡先は投稿時のメール本文に記載して、原稿とともにお送りください。

※自著を参照する場合も、「拙論」「拙稿」といった記載をせず、他の文献と同様に指示してください。

※氏名、所属、プロフィール、自著についての情報、謝辞等は、掲載が決定した後に入れていただきます。

(4) 雑誌の性格上、広い分野に関わっている読者に宛てられる論文となるので、特定の分野の概念について、他の雑誌で通常必要とされるよりも詳しく説明することが推奨されます。

(5) 図、表、画像の見やすさや画質について、編集担当は責任を負いません。また、図、表、画像等に関する使用許可は、執筆者の責任において、関係する個人・団体と取り結んだ上で提出してください。

(6) 原稿は、Word 形式と PDF 形式の両方を提出してください。

4. 「研究報告」「ディスカッション」「書評」執筆要領

(1) 分量は、A4 サイズで 40 字×40 行でレイアウトして、本文、図、表、画像、改行などによるスペース、節タイトル、注および文献表も含めて、5 ページ以内とします（タイトルは除く。要旨、キーワードは不要。フォーマットの 2 ページ目から数えて 6 ページ目まで。）。フォーマットは別紙参照のこと。

(2)～(6)は、「公募論文」執筆要領に準じます。

5. 応募期間

随時受け付けます。次号掲載のための締め切りは別途、各号ごとに定めます。ただし、定められた期間内に提出された論文であっても、採用された論文の数が多い場合や、書き直し等により審査に日数を要する場合など、次々号以降に掲載が延期されることもあります。

6. 審査

投稿された原稿に関しては、まず編集委員会が本規定「1. 投稿テーマ」の基準を満たしているかを判定し、その後査読者に対して論文執筆者の氏名を示さない匿名審査制で審査・選考します。審査の過程で問題点を応募者に指摘し、論文内容の趣旨を変えない範囲で書き直しの要求をすることがあります。査読の結果には「修正なし採択（微修正要求はあり）」「修正のうえ採択」「書き直し再査読」「不採択」があります。なお、ご提出いただいた個人情報厳重に管理し、各号発行に関わる事務に必要な範囲以外で使用することはございません。